



▲『さくら会』の皆さん。右から3番目が山内タミ子さん、右から2番目が作成に協力された山崎喜久枝さん。

小塚60年の歩み 未来へ引き継ぐために

小塚『開拓史』が完成

■小塚町の山内タミ子さんが、開拓集落である小塚集落の入植60周年を記念して『開拓史』を作成しました。山内さんは、在宅福祉アドバイザーになったのを機に2年前から毎月一回、集落の高齢者でつくるグループ『さくら会』の人たちと茶飲み話



■手記を寄稿した同集落の眞茅保さんは、「開墾は雑木や笹が多く、くわ」での作業が大変だった。みんな何も持たない中で土と汗で真っ黒になりながらも希望を持って頑張った、奥さんのテミさんは、「お茶作りが軌道に乗ってからは少しは楽になった。今思うと、夢の中のようを感じる」と、当時のことを思い出しています。なつかしげに話してくれました。

■山内さんは、「小塚の開拓の歴史は、私たちを支えてくれている原点。苦勞を重ねてこられた先輩たちには、これからの人生を楽しんで欲しい。そのためにも集落の結束、人のつながりが大事。この『さくら会』を絆を深めるための集落全体の楽しみにしていきたい」と語りました。

をしながら、入植当時の苦勞話を聞きました。「小塚は子どもも少なく、限り集落の典型のようなところ。未来に何かを残したい」との思いから『開拓史』の作成を決意。同集落の田中義成さんが開拓事業について記録、保管していたものをもとに、元教員の山崎喜久枝さん(寿町)の協力を得ながら作成しました。

■開拓史には、終戦後の開拓事業の推移を年表などを用いて細やかに掲載。また、集落の方たちからの聞き取り調査や手記なども盛り込まれており、当時の暮らしぶりや、苦しみを乗り越え力強く生きる様などがつづきに伝わりつつある開拓史となっています。

高校通信

枕高
1号

Information of the senior high school life

■私たちは、地元の高校である「枕崎高校」「鹿児島水産高校」についてどれだけ知っているのでしょうか？

広報まくらざきでは今月から、「もっと私たちのまちの高校を知ろう」をテーマに「枕崎高校」「鹿児島水産高校」の情報や生徒たちの学校生活を紹介する連載コーナーを設けました。このコーナーを通じて、より多くの方が地元の高校のことを知り、地元の高校のことを考えるきっかけとなればと思います。

第1回目は、枕崎高校について紹介します。



今月のテーマ

枕高の総合学科って？

枕崎高校は、県下公立高校初の総合学科としてスタートして10年が経過しました。「意志の数だけ道がある」をキャッチフレーズに、進学・就職のすべてに対応できる新しい学校づくりに取り組み、実績をあげています。

しかし、枕崎高校の総合学科のことについてよく知られていない面もあるようです。枕崎高校について知っていただくために、今回は総合学科について紹介します。

■総合学科の特色

総合学科は、時代の進展や社会情勢の変化に対応した「特色ある学校づくり」の柱として検討してきたものであり、その最大の特色は、「生徒が将来の進路を視野に入れ、何を学ぶかを自ら決定して、学習計画を立てて積極的に学習できる」ことです。

特色1 多くの科目から、進路に合わせて時間割を作れます

- 進学にも就職にも対応できる科目を多く準備しています。
- 1年次は国語や数学などの普通教科を主に学び、2年次から商業・家庭・体育などの専門教科も学べます。
- 5つの系列（人文科学、自然科学、ビジネス情報、ライフデザイン、スポーツ健康科学）系列が準備されており、自分の得意分野を伸ばせます。

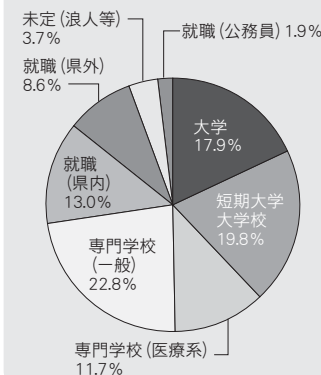
特色2 自分の生き方や進路について、じっくり考えることができます

- 1年次の「産業社会と人間」で、上級学校見学、職場見学・社会人講話などを通じて生き方や進路を学びます。
- 2・3年次の総合的な学習時間「創意」において、自分の進路や興味・関心に応じてテーマを設定し研究します
- 三者面談や教育相談を通じて、進路について考える機会が多くあります。

特色3 きめ細かい指導が受けられます。

- 少人数授業、習熟度別授業が行われます。
- 進路相談や悩みの相談などにきめ細かく対応します。
- 他の同規模の高校より先生方の数も多くなっています。

卒業生の進路 (平成19年3月卒業)



「社会人講話」(年6回開催)

地元を中心に社会で活躍されている方に講演していただき、職業観や人生観を学んでいます。生徒たちの進路決定の参考となるよい機会となっています。

来月号の「高校通信」では、鹿児島水産高校を紹介いたします。お楽しみに。



イラストレーター chinatsuさん

■様々な分野で活躍する3人の鹿児島在住イラストレーターにより、鹿児島の豊かな自然と文化の要素を取り込んで描かれたグループ展「サツマティック」。昨年10月にニューヨークでも開催された同展が、現在、鹿児島市のインターネットショップで開催されています。

この中の紅一点、「chinatsu (ちなつ)」(本名・宗前千夏)さんは枕崎出身。現在、鹿児島市に在住し、主に女性をターゲットにした作風で、雑誌や広告、化粧品のパッケージデザインなど様々な分野で活躍しています。

■昔から絵を描くことが好きだったという千夏さんは、平成4年に枕崎高校を卒業後、鹿児島の短大に進学。その



▲4月20日まで鹿児島市のFA NEW SHOP RAIRA)で開催されています。「土・日曜は顔を出しているかもしれません。見かけたら気軽に声をかけてください」

後、福岡でOLとして働きながら絵を描いていましたが、バリ留学付きの公募展で大賞をとったことをきっかけに「この道で食べていきたい」という思いを強くし、この世界へ飛び込みました。当初は、「お金がなくて食べることもままらなかつた」など、つらい時期もあったというのですが、帰郷して結婚後、徐々に仕事が舞い込むようになり、現在では至る所で彼女の作品を見かけるほど、イラストレーターとして成功を収めています。

■千夏さんは、「苦しかった当時は故郷の友人に食料を送ってもらったりしてとても助かった。今では主人(五洋さん)が大きな支えになってくれていて、周りの支えがなかったらここまでこれなかった」と、周囲の人たちへの深い感謝を語っていました。

また、これからの目標については、「絵を描くカッコいいおばあちゃんか」と笑顔で語ってくれました。